



世の中で話題になっているニュース等について知り、考えるためのヒントを得られるような資料情報をご紹介します。

書店減少

最近の新聞記事から

「苦境の書店 活性化支援」（読売新聞 2026 年 1 月 26 日）夕刊 9 面

「まちの書店の灯 守り踏ん張る人たち」（朝日新聞 2026 年 3 月 12 日）朝刊 24 面

「<大図解>No. 1760 街の書店」（東京新聞 2026 年 3 月 29 日）サンデー版 1・8 面

全国的に書店が減少していることで、本との偶然の出会いや、街の書店が生み出す人のつながりが失われつつあることが問題になっています。一般財団法人出版文化産業振興財団（JPIC）は、2024 年 11 月末時点の調査で、全国の 493 自治体（28.2%）が「無書店自治体」であるとしています。政府もこの状況を深刻に捉え、2024 年 3 月の「書店振興プロジェクトチーム」の立ち上げ、2025 年 1 月の「関係者から指摘された書店活性化のための課題」の公表を経て、2025 年 6 月に「書店活性化プラン」を公表しています。

一方、街では「独立型書店」や「公設民営型書店」の増加、図書館と書店の連携事業等、それぞれの特徴や取り組みをアピールする動きが活発になっています。

今回は、書店減少の現状と、政府や出版業界の各団体がそれぞれの立場から行っている取り組みがわかる資料・情報をご紹介します。

【現状を知る】

書名・記事・論文名	出版情報・URL 等	
町の本屋はいかにしてつぶれてきたか 知られざる戦後書店抗争史	飯田一史著 平凡社 2025 中央：0241/41	図書
日本における新刊書店の標準的なビジネスモデルを解説し、戦後の書店がどのように「再販制度」や「ネット書店」等の課題に直面してきたのかを解説した資料。		
2028 年街から書店が消える日 本屋再生!識者 30 人からのメッセージ	小島俊一著 プレジデント社 2024 中央：0241/38	図書
出版取次や書店経営の経験が深い著者が、出版業界の専門家 28 人に書店の厳しい現状と未来への展望を問うインタビュー形式の資料。		
出版指標年報 2025 年版	全国出版協会出版科学研究所 2025 中央：0231/5/25	図書
出版概況や統計をまとめたデータブック。出版文化産業振興財団（JPIC）による「無書店自治体」調査の結果や、書店業界のイベント・取り組み・ニュース等を掲載している。		

【書店の新たな取り組み】

街の書店が消えてゆく 書店の危機を打開する道は?	月刊『創』編集部編 創出版 2024 中央：0241/40	図書
苦境に立たされる街の書店の打開への取り組みや、既存の大手出版取次を経由せずに仕入れを行い、それぞれの個性を大切にする「独立系書店」増加の動向をまとめた資料。		
姿を消す本屋 文化の灯を守る	『AERA』（2023 年 1 月 30 日号 2023） p26-28 西部	雑誌
福井県敦賀市がしつらえた公設民営書店「ちえなみき」や、直木賞作家の今村翔吾氏が経営する大阪府箕面市の書店「きのしたブックセンター」の取り組みを紹介している。		

【政府の動き】

「書店活性化プラン」を公表します	経済産業省 https://www.meti.go.jp/press/2025/06/20250610004/20250610004.html	Web 情報
関係省庁の書店活性化に向けた施策を整理した「 書店活性化プラン 」(PDF) や、魅力的な書店づくりの参考になる「 書店経営者向け支援施策活用ガイド 」(PDF) 等を紹介している。		

【出版社の取り組み】

書店振興のための共同提言	講談社 https://www.kodansha.co.jp/shotenshinkou	Web 情報
講談社と読売新聞社の2社による、書店活性化へ向けた共同提言。キャッシュレス決済手数料引き下げや、ICタグを活用した在庫の電子管理等、具体的な施策を提案している。 共同提言全文 (PDF) も掲載。		

【図書館と書店の連携】

書店・図書館等関係者における対話の場	日本図書館協会 https://www.jla.or.jp/taiwanoba/	Web 情報
2023年10月から2024年3月にかけて4回実施され、出版関係団体や図書館関係団体が構成員として参加した会議。会議資料や議事要旨を公開しているほか、成果物として「 書店・図書館等の連携による読書活動の推進について～書店・図書館等関係者における対話のまとめ～ 」(PDF) や、「 図書館・書店等連携実践事例集 」(文部科学省) へのリンクを掲載している。		
地域の読書をほりおこす 図書館と書店・出版社の連携による新たな地域読書活動の試みとその課題	日本書籍出版協会図書館委員会著・編 日本書籍出版協会図書館委員会 2019 中央：0192/195 西部：0192/9	図書
第104回全国図書館大会 第18分科会の記録・報告集。「地域において図書館と書店が、どういふかたちで共存できるか」をテーマに、山梨県と長野県塩尻市の事例を取り上げて意見交換している。付録として、事例紹介の際に使用されたプレゼンテーション資料と、参加者アンケートの結果が掲載されている。		
特集 書店×図書館の可能性	『図書館雑誌』(2024年3月号 2024) p131-143 中央	雑誌
書店と図書館の関わりについてこれまでも振り返るほか、長野県塩尻市の「信州しおじり 本の寺子屋」や、東京都多摩市の「図書館職員と書店員の合同おはなし会」等の事例を紹介している。		
特集 蔵書づくりを考えるー出版・流通・書店との関係を背景としながら	『みんなの図書館』(2025年1月号 2024) p3-46 東部	雑誌
地元書店で図書を購入し、福祉施設(就労継続支援B型)に装備を依頼する幕別町図書館(北海道)の経済循環モデルや、利用者自身が図書館で興味を持った本を、地元書店から購入できる注文書を設置する白河市立図書館(福島県)の事例を紹介している。		
山梨県における図書館と書店の連携	吉井潤 『日本地理学会発表要旨集』(2024年日本地理学会秋季学術大会) https://www.jstage.jst.go.jp/article/ajg/2024a/0/2024a_37/_article/-char/ja/	Web 情報
2014年度から山梨県内の図書館と書店が共同で実施している「やまなし読書活動推進事業」について、「贈りたい本大賞」や「やま読ラリー」等の具体的な取り組みを紹介している。一方で、イベント参加者の居住地域の偏りや、イベントが生んだ成果についてのデータ集計の必要性を指摘している。		